

(2) 種駒の活着およびほだ付き

剥皮調査による種駒の活着およびほだ付きは、第1表のとおり各区とも良好で、接種時期別には大差がなく、その後のほだ付き観察においても第3図のとおり良好であった。

しかし、3月接種区は、その後のほだ付きがとくにすぐれ、樹皮の色がよく、害菌の寄生も殆んどなく、原木のかわきぐあい(減少率約6%)がほだ付きにも

っとも適していることが認められた。

4. む す び

- (1) この実験では、原木の重量減少率が、月平均2%内外で、8cm前後の小径木は、10cm以上の大径木にくらべて減少率が大きかった。
- (2) ほだ付きは、原木の重量減少率6%位のものが良好でかつホダ木の害菌防止上からもよいことが観察された。

第 1 表 種 駒 の 活 着 お よ び ほ だ 付 きの 比 較

種 駒 の 接 種 時 期	種 駒 の 活 着 率 %	種駒を中心としたほだ付きの程度					
		種駒1個 当りほだ 付き面積 cm ²	ほだ木の長さの方向		ほだ木の長さに直角の方向		
			上	下	左	右	
1 月	96 (103)	180 (107)	200 (116)	201 (99)	31 (103)	31 (107)	
2 月	94 (101)	180 (107)	158 (92)	228 (112)	31 (103)	31 (107)	
3 月	90 (97)	144 (86)	158 (92)	181 (89)	29 (97)	27 (93)	
平 均	93 (100)	168 (100)	172 (100)	203 (100)	30 (100)	29 (100)	

〔注〕 () 内の数字は平均を100とした時の値

31. しいたけ品種集約栽培試験

福岡県林業試験場 主 計 三 平

ま え が き

しいたけの品種(系統)別発生時期、収穫量及び形質等は、気象条件の差異により異なることが知られている。従ってしいたけ栽培においては、その地域に適した且栽培計画に応じた優良品種を選定することが望ましい、そこで本県内に適する優良品種を選抜する目的をもって試験を実施したのでその概要を報告する。

本試験にあたり、供試菌の提供並びに懇篤なる指導を賜った温水技官、前当場利用課長、山内技師に対し厚くお礼を申し上げる。

1. 試 験 地

福岡県八女郡黒木町林試構内

2. 供 試 材 料

23年クスギ(末口径8~12cm・長さ1.3m・410本)
 種菌41系統(本場で分離した20系統 他社分)
 (宮崎分場で分離された11系統 10系統)

3. 試 験 方 法

当場で、みぞつき種駒に培養し、昭和35年1月伐採

(1) 永井行夫、伊藤達次、西村鳩子、しいたけ各系統の発生量及び生態的、形質的特徴

の原木に同年2月接種、伏せ込みを行い、ほたつき調査並びに収穫量、形質調査を実施した。

4. 試験結果

- (1) 系統別収穫量 第1図のとおり
- (2) 系統別季節の発生率 第1表のとおり

5. 考 察

- (1) ほたつきについて…比較的不良なのはF1、F3、304で60%内外、その他は70~85%であった。
- (2) 収穫量については第1図のとおりで、最も多かったものは6~6で、以下下記のとおりであった。
F7 > F16 > 16~3 > F19 > F8 > F17 > 16~13 > F18 > F15 > 1,605 > 121等で乾燥重量の1Kg以上を示した。
- (3) 形質について…1個当り乾燥重量の大きいものは、7~1、F14、121、106、204、8~2、304等で、2g以上を示したが、何れも柄が太くて長い欠点を認めた、6~6は柄が太くて長く、傘は黒褐色で、形質に変化したものが多く、商品価値として劣

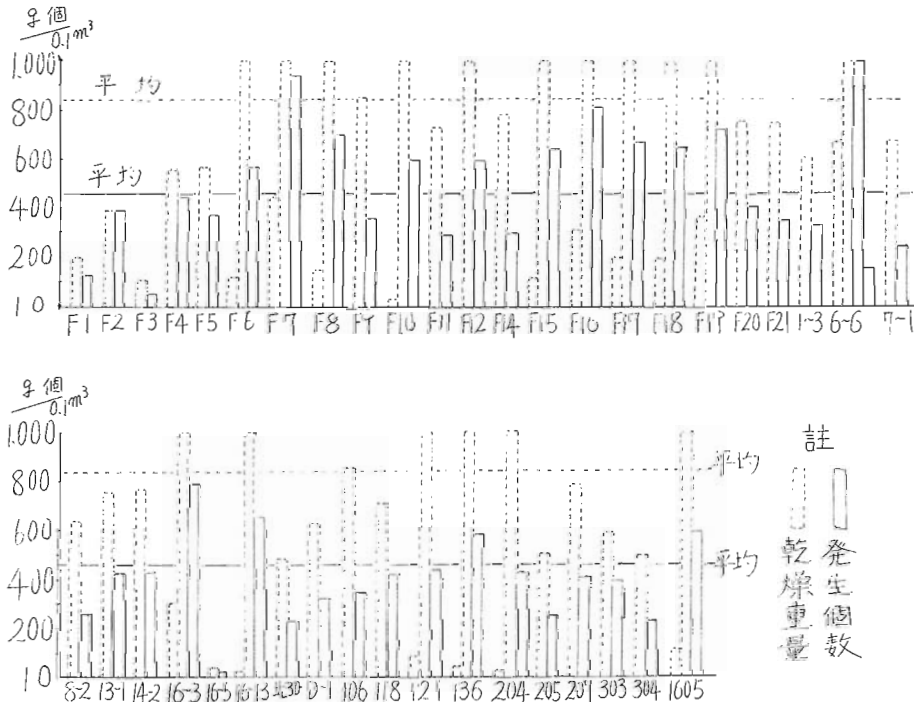
った、これからして、16~3、F7、F16、F17、F18等は傘の大きさが適度で、柄は最も細くて短く、色、鱗皮等も優れていた。

- (4) 発生型について…宮崎分場で分離された菌系及び他社のものは概ね示されたとおりの発生型を示した、また当場で分離したものについては、F4、F5が秋出型、F9、F11、F14、F21が春出型で、その他は春秋出型であった、なお最高発生年度は殆んど2年目であったが、以降漸次減少するものと、中休みをして翌年増加する系統がみられた。

6. む す び

昭和36年度より発生したキノコについて4年間調査した結果は以上のとおりであるが、供試原木の不足、ほたつき率の差異、調査期間の問題等で、収穫量については多少の誤差が生ずることをまねがれない、しかし、形質、発生型については夫々の特性を把握した、従って本試験において、優良と認めたものは下記系統であった、この中16~3は既に宮崎分場で選抜された

第1図 0.1m³当り4年間のしいたけ発生量



ものであり、当県内に適した優良品種と考える。

また、本試験で優良と認めた品種についても、県内に普及できるものとする。

特に生しいたけの消費が増大した今日、これが発生

時期と、市場価格の点を考察した結果、経済性に富んだ系統と見られる。

◎本試験で優良と認めた系統

16～3、F7、F16、F18、A S121、1,605、6～6

第 1 表 系統別季節的発生率 (%)

系統	季節				系統	季節			
	12～2月	3～5月	6～8月	9～11月		12～2月	3～5月	6～8月	9～11月
F 1	0	4.6	21.4	74.0	1～3	4.1	30.7	14.6	50.6
F 2	5.3	9.2	48.8	36.7	6～6	32.8	65.4	0	1.8
F 3	0	66.0	0	34.0	7～1	9.0	75.0	1.0	15.0
F 4	1.8	18.3	1.4	78.5	8～2	7.4	91.9	0	0.7
F 5	2.7	7.1	5.2	85.0	13～1	0	14.4	4.6	81.0
F 6	22.5	42.6	0	34.9	14～2	10.0	73.8	7.4	8.8
F 7	26.0	44.6	0	29.4	16～3	25.2	32.8	13.2	28.8
F 8	33.8	41.8	0	24.4	16～5	18.2	81.8	0	0
F 9	12.6	64.6	0	22.8	16～13	6.1	77.3	12.5	4.1
F 10	28.0	52.6	0	19.4	北3 a	1.6	21.0	7.8	69.6
F 11	9.3	65.4	0	25.3	D～1	8.0	10.0	7.6	74.4
F 12	27.4	45.1	0	27.5	106	1.3	91.9	0	6.8
F 14	13.9	65.7	0	20.4	118	1.8	97.5	0	0.7
F 15	34.2	37.0	0	28.8	121	2.9	94.0	0	3.1
F 16	29.8	37.9	0	32.3	136	3.1	96.2	0	0.7
F 17	33.6	42.3	0	24.1	204	1.2	98.6	0	0.2
F 18	26.7	42.8	0	30.5	205	0.3	99.4	0	0.3
F 19	28.6	42.6	0	28.8	207	4.0	92.4	0	3.6
F 20	53.0	29.6	0	17.4	303	2.0	5.9	14.7	77.4
F 21	51.2	40.5	0	8.3	304	0.5	25.3	12.0	62.2
					1,605	27.4	27.0	0	45.6